

卒業生のいま



彦根市立亀山小学校 教諭 かわかみ えり 川上 恵里さん

■ Profile 滋賀県米原市出身。平成21年、教育学部教員養成課程理科教育コースを卒業し、念願の小学校教諭となる。専攻は物理。彦根市立稲枝東小学校で3年間勤めた後、平成24年4月から同市立亀山小学校へ。現在5年生の担任。理科・家庭科主任、委員会やクラブなど縦割り班での活動を中心とする特別活動主任でもある。子どもが大好き。度胸と思い切りの良さは抜群!

苦手教科を克服して自分の武器に!
教育実習や教科支援など学生時代にできるだけ現場を体験することが、
教員になってからとても役に立ちます

■ 文系から理系へ大転換

高校時代は文系で、国語の先生になろうと思っていました。ところが生物の時間にものすごく先生に怒られて発憤。勉強するうち苦手だった理科(生物)が楽しくなり、良い点数がとれるようになりました。それで、願書を出すときに思い切って理科を選択。先生や家族もびっくりしていました。物理を選んだのも賭けみたいなもの。理科教育コースは入学後、物理・化学・生物・地学・理科教育と五つの分野に分かれますが、生物が一番人気。定員オーバーでなかなか決まらず、バイトに遅れてしまいそうだったので「私、物理でいいです」って(笑)。「やったことないけど、一生懸命やればなんとかなる」「物理専攻ってかっこいいかな」という思いもありました。結果的にはそれが成功。「理科離れ」や「理科嫌い」の子どもが増えていることもあり、採用試験でも理科は有利でした。

■ 母の死をきっかけに教師を志す

「滋賀県で小学校の教員になるなら滋賀大がいい」と聞いていたので、ほかの大学は考えませんでした。中学生のときに母を亡くし「もう学校なんか行きたくない」と思っていたとき、お子さんを亡くされた先生から「気持ちわかるわ」と言葉をかけていただいた



たのがとても嬉しかった。こんなふうには子どもの気持ちをわかってあげられる先生っていいなと思いました。また、心の痛みを共有するという点で、自分の辛い経験を生かすことができるかもしれないと考えたのです。

教員として初めて赴任した稲枝東小学校では、子どもたちがかわいくて仕方なかったですね。中にはうまく気持ちを抑えることができず、気に入らないことがあると教室を飛び出してしまう子もいて大変でしたが、後で、その子が少しずつ変わってきたという話を聞いて、とても嬉しかったです。



■ 教育現場での体験を生かして

教員採用試験の前には問題集をやったり、面接や模擬授業対策の講座を受講しました。滋賀大の先輩方から寄せられたデータがたくさん集まっていて、実際に練習した問題が出題されるなど、とても役立ちました。在学中は栗東の治田小学校で2年間、理科支援員として授業の準備のお手伝いやサポートをさせていただきましたが、教員になってからこの体験がとても生きています。授業の流れや子どもたちに対する課題の投げかけ、興味の持たせ方など、先輩の授業はたいへん参考になるので、積極的に現場に出ていってほしいですね。また、特別支援教育^{※1}についての知識をしっかりと身につけておくことで、ADHD^{※2}やLD^{※3}などの子どもたちへの理解も深まります。

※1:障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うこと。
※2:注意欠陥・多動性障害。不注意、衝動性を特徴とする発達障害、または行動障害。
※3:学習障害。

野村証券株式会社 いだ ひろき 猪田 寛生さん



■ Profile 愛知県豊田市出身。平成10年3月、滋賀大学経済学部会計情報学科卒業。同年4月、野村証券株式会社に入社。現在、同社福井支店ファイナンシャルコンサルティング課に勤務。日本最大の証券会社に身を置き、日々自己研さんに励みながら、厳しい競争社会を生き抜くことに生きがいとやりがいを感じている。一見シャイで寡黙だが、信義に厚い。目の下はフルマラソン。

彦根に閉じこもっていないで積極的に京都や大阪にも出てみよう
若いうちにいろいろな体験をすることで、将来の可能性が広がります

■ 水泳部&体育会本部役員として活躍

N大学を第一志望にしていたのですが果たせず、家庭の事情で浪人することも叶わなかったため、滋賀大学の経済学部へ。当時は公認会計士になろうと考えていました。半ば強引に誘われ、水泳部に入部。体育会に所属して本部役員となり第34代の委員長を務めました。勉強するつもりで入学したのに部活や体育会の活動にのめりこみ、いつのまにか勉強しなくなっていましたね(笑)。教育学部との関係が今ひとつだったりと、少し残念に思うこともありましたが、小さな大学なので仲間意識が強く、高校の延長のようで楽しかったです。

■ 「今のままではうちは通らんぞ」に発奮

卒業時には就職先として金融業界を考えるようになっていました。当時は「北海道拓殖銀行」や「三洋証券」などの経営破たんが相つぎ、どちらかといえば金融業界は売り手市場。就職活動していても「うちにおいでください」的な雰囲気が強かった中、「野村証券」だけはOB訪問するたびに「今のままじゃうちは通らんぞ。出直して来い!」とばかりに課題が与えられ、さまざまなアドバイスをいただくなどインパクトが強烈でした。



■ 成果主義の厳しい社会で生き抜く

入社後、横浜支店の法人課に配属され、翌年9月に同支店の企業サービス課(後、企業金融課に改称)に異動。平成16年12月には京都支店勤務となり、資産管理課に配属されました。翌年7月から



は同支店の企業金融課へ。平成22年12月に福井支店のファイナンシャルコンサルティング課に異動し、現在に至っています。法人課の仕事は金融機関や財団などの公的機関に近い所の資金運用がメイン。企業サービス課などはM&AやIPO(株式の新規公開)といったインベストメント・バンキング^{※1}業務が中心です。資産管理課やファイナンシャルコンサルティング課ではリアル^{※2}を中心とした資産運用などのアドバイスを行っておりますが、私は法人相手の営業経験が長かったせいか、上場企業を担当しています。掲げた自己目標に対してどれだけ成果を出せるかが全てであり、とても厳しい世界ですが、良い意味での緊張感もあります。学生時代とは比べ物にならないくらい、いろいろな意味で勉強しています。社会に出て感じたのは、4年間彦根でばかり過ごしていたのはマイナス面もあったということ。今はインターネットという大変便利なツールも一般化し、私たちのころに比べて情報収集のための環境も整っていると思いますので、積極的に外に出て行ってチャンスをつかんでほしいですね。若いうちにいろいろな世界を知ることは自分の糧になりますし、可能性を広げることにもつながります。

※1:一般銀行が商業銀行と区分されるのに対し、投資銀行をさす。企業の資金調達をサポートし、買収や合併などの財務戦略上のアドバイスを行う。個人向けの業務は行わない。
※2:一般消費者を対象とした小売のこと。